

独立行政法人 日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置本部長 山崎 雅男 殿

2014年9月16日

日本共産党東京都議会議員団団長 吉田信夫

景観モニタージュ写真の疑問点について

新国立競技場計画の景観への影響に関する日本共産党都議団の質問にたいする回答として、8月27日、日本スポーツ振興センター（JSC）より景観協議に提出した40地点からの現況写真と完成後のモニタージュ写真が提出されました。このモニタージュ写真のうちA-1、A-11について、近隣住民の方から人工地盤の高さが基本設計と整合しないとの声が寄せられ、日本共産党都議団は調査をつづけてきましたが、以下の点で疑問を指摘せざるをえません。

○A-1について

モニタージュ写真は、仙寿院交差点の南側から明治公園、外苑西通りを見たものです。この外苑西通りに沿って、明治公園上に設置される人工地盤側面の最上部の高さは、JSCより示された数値をもとに計算すると地上10・3mになります。人工地盤に隣接して立っている街路灯は高さ10m（都建設局の回答）、信号機の最上部（柱）は約7m程度です。

したがって完成後を示すモニタージュ写真では、人工地盤の最上部は前方の街路灯に近い高さで、信号機よりも高い位置にあるはずですが、提出された写真では、人工地盤は街路灯よりかなり低く、信号機と同じ高さです。私たちは、実際に道路と明治公園との境界地点で10・3m程度の高さに風船をかかげ、モニタージュ写真の撮影された地点に近い歩道上から風船の高さを確認しました。（資料）その高さとくらべてもモニタージュ写真の人工地盤は低すぎます。

○A-11について

モニタージュ写真は、観音橋交差点の南西の角から北東方向に新国立競技場を見たものです。この地点の人工地盤側面の最上部は地上から約8・4mでありながら、正面の街路灯の高さ（10m）とくらべると、モニタージュ写真の人工地盤は低く見えます。この地点でも、道路境界地点から8・4m程度の高さに風船をあげて高さを確認（資料）しましたが、モニタージュ写真の人工地盤の高さより高い位置になりました。

景観への影響を判断するために提出されたモニタージュ写真に、実際より景観への影響が少ないような印象を与え誤りがあるとした重大な問題です。指摘した点について、JSCとしてどのような見解ですか。人工地盤の高さの表現が適正なのか否か、その根拠も含め至急ご回答ください。

以上